



報道関係者 各位

令和6年12月25日

福島イノベーション・コースト構想 都内メディア発表会を1月21日に開催 敷地内実証件数 1,100 件を超えた「福島ロボットテストフィールド」 入居企業等代表 5 社による研究開発成果を発表します

(公財)福島イノベーション・コースト構想推進機構は、令和7年1月21日(火)に都内(港区高輪)で「福島ロボットテストフィールド(以下、RTF)」をテーマにメディア発表会を開催します。

令和7年4月、全面開所から5年を迎えるRTFは、敷地内実証件数が1,100件を超え、新たな開発成果を続々と産み出しています。

発表会当日は、RTFを活用して技術開発をし、事業化に至った5社がこれまでの成果を発表します。また、トークセッションでは、「RTFによる新たな産業集積形成への挑戦」と題し、今後の展望を意見交換します。

各報道機関の皆様には、各社の事業成果や発表会当日の様子等をぜひご取材いただきますようお願いいたします。

※令和6年6月14日、福島県と福島国際研究教育機構(F-REI)は、RTFのF-REIへ統合に関する基本合意書を締結しました(統合期日:令和7年4月1日)。

本統合は、RTFのこれまでの機能及び成果をF-REIが継承するとともに、ロボット分野を中心とするF-REIの研究開発、産業化、人材育成に関する機能をRTFに付加することにより、RTFの更なる発展・活用を目指すために行われるものです。



■「福島イノベーション・コースト構想 メディア発表会」開催概要

- 1 開催日時 令和7年1月21日(火) 13:00~15:30
- 2 開催場所 TKPガーデンシティPREMIUM品川高輪口
(東京都港区高輪4-10-18 京急第1ビル3F) JR品川駅高輪口徒歩2分

3 登壇企業（詳細は別紙1を参照ください）

- イームズロボティクス株式会社 代表取締役 曾谷英司 氏
— ドローンで支える 命と暮らしを守る物流インフラの構築 —
- テトラ・アビエーション株式会社 代表取締役 中井佑 氏
— シームレスな移動を実現する空飛ぶクルマのある未来 —
- 株式会社人機一体 代表取締役社長 金岡博士 氏
— あまねく世界からフィジカルな苦役を無用とする —
- 株式会社リビングロボット 代表取締役社長 川内康裕 氏
— ロボットと人が共に生きる社会の実現 —
- 株式会社クフウシヤ 代表取締役社長 大西威一郎 氏
— イノベ地域での新しいチャレンジ —

4 内容

- 福島イノベ構想及び RTF の歩みと取組のご紹介
- 登壇企業 5 社から RTF 及び福島県浜通り地域での技術開発の成果を発表
- トークセッションの実施
テーマ：「RTFによる新たな産業集積形成への挑戦」
モデレーター：RTF 副所長 若井 洋
セッションスピーカー：登壇企業 5 社
- 個別取材
登壇企業各社のブースを設け、製品やサービスをご紹介します。
その他の RTF 入居企業の研究成果や事業内容等をパネル展示します。

5 取材について

下記 URL または二次元バーコードから申込フォームにお進みいただき、必要事項を入力して送信してください。

<https://e-ve.event-form.jp/event/94021/mediaconference>



【問い合わせ】

公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構
所在地：福島県福島市中町 1-19 中町ビル 6 階

[発表会についての問い合わせ]

福島オフィス交流促進部 部長 植田 誠（うえた まこと）
メール：m.ueta@fipo.or.jp 電話：024-581-6892(直通)

[登壇企業についての問い合わせ]

福島オフィス産業集積部 部長 小林 正典（こばやし まさのり）
メール：m.kobayashi@fipo.or.jp 電話：024-581-6889(直通)

■福島イノベーション・コースト構想推進機構とは

福島県浜通り地域等に新たな産業の創出を目指すため 2014 年 6 月に取りまとめられ、国家プロジェクトとして位置づけられる「福島イノベーション・コースト構想」のもと、福島ロボットテストフィールド、東日本大震災・原子力災害伝承館等の拠点運営や、産業集積の実現、教育・人材育成、交流人口の拡大等に向けた取組を進めています。

<https://www.fipo.or.jp/>



福島イノベ機構

■福島ロボットテストフィールドとは

福島イノベーション・コースト構想に基づき整備された「陸・海・空のフィールドロボット」の一大開発実証拠点として、2020 年 3 月に全面オープンしました。

インフラや災害現場など実際の使用環境を再現しており、ロボットの性能評価や操縦訓練等ができる世界に類を見ない施設です。

災害対応や物流・インフラ点検等の分野で活躍が期待されるロボットやドローンの研究開発・実証実験を積極的に誘致するとともに、福島県浜通り地域等へのロボット産業の集積を進めています。

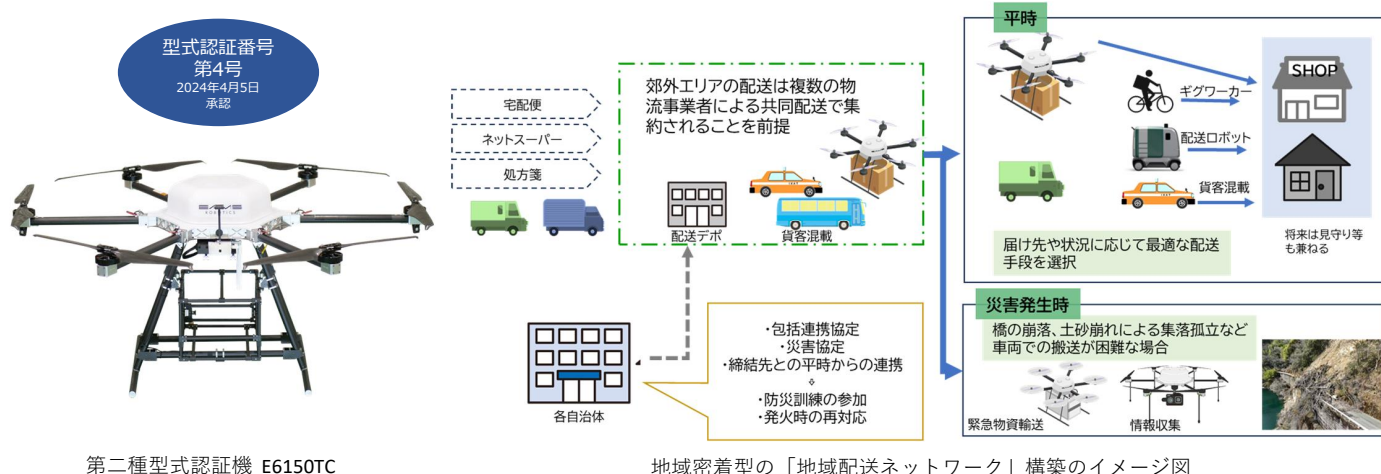


Company profile

2018年3月設立。UAVやUGVなどの自律飛行・自律走行できるガジェットを用いて、クライアントが抱える問題に対し、解決力を持って提案をする会社です。特に、ドローンを使ってお客様の業務をいかに効率化するかが一番重要だと考えています。

企業コメント

・2024年4月に弊社機体E6150TC型は第二種型式認証の物流用途機体として認められ、監視者のいない目視外飛行レベル3.5飛行が可能です。現在、2024年5月にE600-100を第一種型式認証申請中で、レベル4飛行の実現により物流や緊急時（災害時）が可能となります。地域密着型の「地域配送ネットワークの構築」を目指しています。



＜シームレスな移動を実現する空飛ぶクルマのある未来＞

Company profile

2018年6月設立。「移動」をより便利で快適にするための、eVTOLを開発しています。2020年2月にBoeing社が後援するeVTOLの国際開発コンペGoFlyに出場し、世界855チーム中唯一の受賞チームになりました。日本企業として初めて、米国連邦航空局（FAA）からeVTOLの試験飛行許可を取得しました。

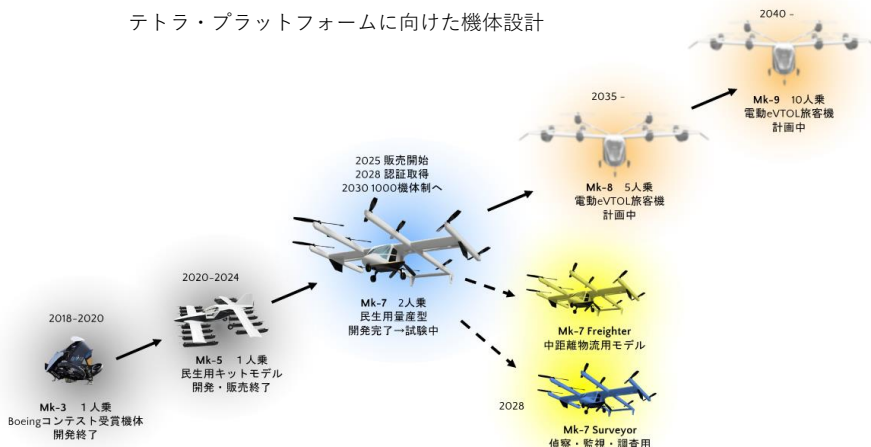
企業コメント

・次世代モビリティ「eVTOL」の実現を通じ、空の移動を身近にすることを目指しています。これまでの開発実績を基盤に、現在は「Mk-7」の開発を進めています。地域産業の活性化や社会課題の解決に挑み、新しい移動の未来を創造します。

teTra Mk-7



テトラ・プラットフォームに向けた機体設計



Company profile

2007年10月設立、2015年10月に商号変更。独自の力学ベースの先端ロボット工学技術と人間機械相乗効果器（人機）というコンセプトに基づき、ロボットの研究開発を行なっています。2024年7月より、人機一体の技術が初めて実装された『多機能鉄道重機』が日本信号株式会社から製品化され、JR西日本営業線にて実用が開始されており、今後は、鉄道分野に限らず、電力・建設・道路などの様々なインフラメンテナンス市場の苦役の解消を目指しています。

企業コメント

・2024年に零式人機.ver.2.0.をベースに日本信号によって開発された多機能鉄道重機が、世界で初めて社会実装されました。ロボットのまち南相馬に先端ロボット工学の爆発的社会実装の基点となる「ロボット教習所」（シン・人機一体 福島基地）の設立構想があります。



多機能鉄道重機（写真提供：JR西日本/日本信号）



シン・人機一体 福島基地（妄想案）

<ロボットと人が共に生きる社会の実現>



株式会社リビングロボット

Company profile

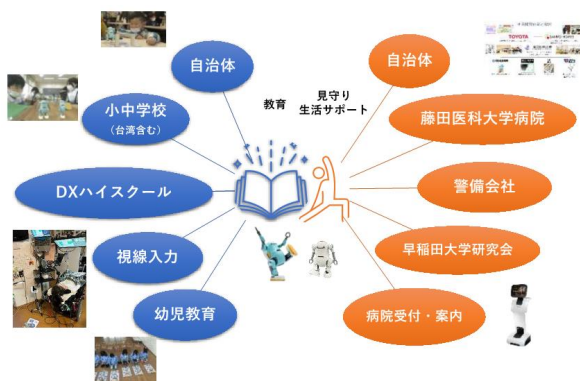
2018年4月設立。「生きるロボット」：人の成長に合わせて、共に成長するロボット、「活かすロボット」：より人が人らしく生きられるようにするロボットを、当社開発のPartner Robot Platformで製品化を進めます。

企業コメント

・当社は、乳幼児からシニアまで ①各世代にマッチする最適なロボットデザインを作成、②ロボットと共に成長するクラウドシステムの開発、③ビジネス化のためのサービス会社と連携し、ロボットと人が共に生きる社会の実現を目指しています。



製品化を支える技術



© MODERHYTHM / Kazushi Kobayashi

現在進行中のプロジェクト

Company profile

2014年10月設立。ROSやAIなどのソフトウェア開発の技術力やノウハウを強みとして、電気設計やメカ設計も社内で試作開発することが可能なファブレスロボットベンチャーです。まだ世の中に存在しないサービスロボットの自社製品開発や試作開発、特注ロボットを製作する受託開発、協働ロボットを利用目的に合わせてシステム化するシステムインテグレーションなどに取り組んでいます。

企業コメント

・当社は、業務用ドライ清掃ロボット（2019年～）、階段昇降ロボットの試作開発（2021年～）、4脚ロボット（2023年）の開発を、首都圏にはないイノベ地域の①ものづくり企業（1個からの試作）、②実証場所（RTFほか）、③支援メニュー（特許、製品PRほか）を活用し進めています。

■ロボット開発の経過

